別記(二)

指令第七號

九月五日午後六時發

東交爭議首腦部

一、東交一萬二千全兄弟の一糸乱れざる完全なる市電ゼネストは全勞働階級はもとより全社會の賛嘆と驚異と注視の的となつて居る。大新聞社は競つて半頁大の號外も發行し一大センセイションを捲き起してゐる。今更東交の偉力に驚かされてゐるのだ。斯ゆる結果は勞働者を初め俸給生活者、全無産者の関心を呼び起し、我等と同一業務に服してゐる青バス従業員は動搖し出した。市電一萬一千の全勞働者が五萬の家族の安危を双肩に決死の斗爭をしてゐる時、同一産業の然も同一路線に働く勞働者として當然の事である。動搖は更に拡大深化するであらう事を信ずる。斯くて更に他勞働者層にも此の形勢は順次波及するであらう事も明らかである。

二、情勢は断然有利だ。

斯ゆる情勢に驚きあはてた当局は本日正午首脳部以下斗爭委員全部四十五名(内四名は裏切者)の懲戒解雇を要求した。だが山下局長は既に二日全員解雇を要求してゐるのだ。一度首切つた者を又首切つたとは局長も大分狼狽血迷つてゐる様だ。切が斯る事は第飯の芋だ。辞令が出たと言ふ事だけそんな辞令は受取る必要はないのですぐ連絡委員を通じて斗爭委員の家族を丁訪し辞令を預かり連絡委員を通じて首脳部に届けて呉れ。全部取還め!

三、見よ。今其の大きやつプ共の運轉する電車自動車の大事故は各所に續出し交通不安は絶頂に達してゐる。市民の当局非難の聲は益々高まるばかりだ。